

令和6年度 校内研究について

令和6年度 北杜市立長坂小学校

<校内研究に取り組むにあたって>

教育基本法や教育公務員特例法により「自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に務めなければならない。」「その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に務めなければならない。」と定められている教育公務員にとって、学校や児童の実態・課題を把握し、その解決等に向けて組織・個人として研究（研修）に臨むことは当然のことである。こうした研究（研修）が、仮に「法律に定められている」「毎年取り組んでいる」といった理由から、漫然と行われている状況があるとしたら、それは未来を担う子供の成長を支える者としての自覚に欠けると言わざるを得ない。そして、このことは、校内研究に限ったことではなく、我々の職務全般に対して言えることである。

本校の校内研究が前述の状況にあるとは思わないが、民間企業と異なる公務員組織には、ともするとそのような状況に陥ってしまう構造的な危険が潜んでいることを念頭に置くことは必要と考える。

教育公務員を含む公務員は、国民生活の向上に向け、社会全体のために働いている。民間企業のように利益を生み出すことを特に求められているわけではない。そうだとすれば、国民生活の向上に向け、社会全体のために働く私たちに求められているものは何であろうか。法律に定義されたものをはじめ、教育公務員に求められるものは多岐に渡るのであろうが、少なくとも子供への向き合い方、授業の質、保護者への対応といった直接の業務に関わることはもちろんのこと、働き方、仕事に向かう姿勢、地域社会から向けられる教師に対する視線といった、教育に携わる私たちの在り方や立ち位置といったことについても、きちんとした考えを持つことが求められるのではないかと。そして、このことは今後ますます重要になってくるであろう。

日々の業務にしても、校内研究にしても、子供同様、教師も一つ一つの課題を自分事として捉え、その解決に向けて主体的に取り組んでいきたい。

校内研究は、研究主題等に基づいた組織としての研究（研修）であるが、それを支えるのは日々の個人の問題意識や取り組みである。個の力を伸ばさずして組織としての力の向上は目指し難い。校内研究の研究主題等に必要以上に固執することなく、個人の問題意識やキャリアステージに応じた目標の設定と具体的な取り組みを進めることを通して、学び続ける教師の姿を体現していきたいものである。

社会が急速に変化する時代にあって、学校教育もまた大きな転換点を迎えている。曲がり角の向こう側に何があるのか―、10年後、15年後に社会で活躍する子供に必要な力は何なのか―。イメージしたものが結果的に正解か否かは現時点では分からない。しかし、先を見通す中で必要と思われる教育活動に果敢に取り組んでいきたい。

熱意を持ち、新しいことや変革を恐れずチャレンジし続ける教師が作り出す“ワクワクする授業”“子供が頭をフル回転させる授業”。校内研究を通して、このような授業を子供に提供することを通して、課題を見出し、仲間と力を合わせてその課題を解決し、よりよいものや新たな価値を創造する子供（人）の育成を図っていきたい。

それこそが、私たちの存在意義であり、同時に、目の前の子供に“時代の変化や社会の潮流にくじけることなく力強く生きていく力の基礎を育む営み”に他ならないと考える。

長小校内研のミッション（長期の展望）

未来をつくる人を育成する

長小校内研のビジョン（中期的な視点でみる学校の姿）

子ども達にワクワクを提供する学校

長小校内研のバリュー（教師の行動規範）

- 熱意をもって取り組む
- 改善・変革に向けて行動する
- 新しいことを取り入れる
- 個の力を伸ばす
- 自分自身が長坂小の“顔”として行動する

1 研究主題・副題

研究主題

進んで課題解決に向かおうとする児童の育成に向けた授業づくりの研究

副題

対話を取り入れた問題解決的な授業構成と

ICTの効果的な活用による授業改善の取り組みを通して

2 主題設定の理由

<校内研究のおよその歩み>

本校は、開校以来「対話」を取り入れた学びを研究の柱に据えて取り組み、一定の成果をあげてきた。長坂小が対話を取り入れた学びにおいて重視したことは、主に次の点である。

- ・ 一対一に限らず、複数の他者との交流、感性や感覚の交流、無言の意思伝達、教材との対峙等、言葉に限らない様々な方法で行われるやりとりを対話と捉える。
- ・ 対話する力（いわゆる対話力）を、単に言葉のやり取り（浅い対話）に限定するのではなく、考えの根拠やそれを形づくる人の内面に迫るやりとりを通して、考えを広げたり深めたりすること（深い対話）と捉える。
- ・ 自分の考えや思いをしっかりと持って、話し手や聴き手になる経験を繰り返すことで自他の理解を深めたり互いに高め合ったりするよさを児童が実感できるようにする。
- ・ 対話の基礎となる話し方や聴き方の指導を日常的に行う。特に聴くことの意味や価値を指導することで、聴く力（聴き取る力）の育成を図る。
- ・ 対話を通して得られる「発見」や「気づき」を大切にする。

そして、こうした取り組みによる成果として、次のような点を挙げることができる。

- ・ 学校全体としての話す力や聴く力の高まり。
- ・ 新しいものや慣れていないものを受容（しよう）する姿勢の醸成。
- ・ 他者の考えを自分の考えに取り入れようとする意識の高まりと、そのような意識からくるねばり強い言葉や考えのやり取り。

これらの他にもさまざまな成果や課題が明らかになった。その詳細については、これまでの研

究紀要を参照されたい。対話を柱に据えた研究の中で、話し方や聴き方に関する資料や掲示物、対話に関する系統表等、様々な成果物も生まれ、「対話」は長坂小における学びの文化になりつつあった。

また、対話を取り入れた学びに加えて、本校では全ての児童が学びに向かいやすい環境を整えるという観点から、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりや授業改善に関する研究も行われてきた。いわゆる学習アイコンを用いた意思表示や教室掲示における特に教室前面の簡素化等、全ての児童が学習に集中できるようにするための手立てが講じられてきた。特別支援の要素を対話を取り入れた学習に取り入れることにより、対話だけでない多方面からの授業改善が図られてきた。

そのような中、2020年からおよそ3年超に及んだ新型コロナウイルス感染症による様々な行動制限は、学校教育・学校現場に大きな打撃を与えた。言葉を交わすことやスキンシップを図ることなど、相手との接触が厳しく制限され、対話を通して考えを交流したり新しい考えを生み出したりすることが難しい状況となった。グループ学習や教室における机の配置といった学習の形態についてもその多様性が制限されることとなった。この間も、長坂小では対話やユニバーサルデザインを大切にした学びを展開してきたが、制限された状況下で取り組みを進めることに難しさがあったことは確かであろう。

対話については、開校以来取り組みを続けてきたことと、コロナ禍で様々な活動が制限されたことが影響し、いつしか各種成果物は残っているものの、それらの元となる根本的な考え方や対話に取り組む必要性といったものがある意味で忘れ去られてしまう形となった。

一方で、コロナ禍は学校現場にプラスの変化ももたらした。その最たるものがICT環境の充実である。従前から計画こそあったものの、その整備や活用は十分とは言い難いものであった。しかし、コロナ禍における対面での活動の制限やリモート授業の必要性等から、児童の一人一台端末の整備・活用、それに伴う教師のICT活用技能及び指導技術の向上が見られるようになった。本誌における学校のネットワーク環境には、いまだ不十分さが認められるものの、ICTを活用して情報を収集したり、互いの考えを共有したりする活動を進めていく素地はできているとよい。

ここ数年は、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した授業づくり・授業改善に取り組んできた。指導の個別化と学習の個性化を意識し、学習の中で児童が決定したり選択したりする場面を設けることにより、主体的に学習に取り組めるような手立てを講じてきた。国語や算数に偏りがちな校内研究にあって、家庭科や体育科、総合的な学習の時間等、様々な教科・領域で研究授業が実施され、授業づくりや授業観察などの面で多くの発見や気づきが生まれた。

<児童の現状>

長坂小の児童のよさや課題について、本校教職員の捉えとしては主に次のことが挙げられる。

- ・素直でまじめな児童が多い。
- ・(学校の規模からすると)児童同士の関わりが深い。
→学年を越えた関わりが多く見られる。
- ・新しいものに対する壁が低く、比較的スムーズに受け入れることができる。
- ・ICTの活用技能が上達している。
- ・自分で考え、判断し、行動する姿勢を育みたい。
- ・話はするが、相手の考えを受け入れる姿勢が不十分である。

- ・基本的な学習規律が定着していない様子が見られる。
- ・積極性やねばり強さがさらに伸びるとよい。
- ・自己肯定感が低い児童が見られる。

→自己受容（“よい”自分も、“ダメな”自分も受け入れる）へとつなげる必要がある。

新しいものに対する壁の低さや他者との関係構築に関する点は、前向きに物事に取り組む上で大切な姿勢であり、本校の児童の自助資源と言えよう。そして、こうした姿勢こそ、これまでの本校が取り組んできた研究の一つの成果として捉えることができる。

一方で、課題として挙げたことについて見てみると、社会の状況や時代の移り変わりに起因すると言えそうなものもあるが、ここ数年のコロナ禍の影響によるものと捉えられるものも多いのではないだろうか。ここ数年、児童は様々な活動を制限される中で、教師をはじめ大人の指示を受けて行動したり活動したりする場面が極端に増えた。本物に触れることや他者と交わること、実際に体験してみることなど、所謂“リアルな経験”を十分積めずに過ごしてきた。結果として、自分で考えたり判断したり行動したりすること、自分を堂々と表現すること、他者との対立を乗り越えて新しい考えを生み出すことといった点において、不十分さが目立っているように思われる。

しかし、今挙げた課題の多くは“経験不足”によって生じるものである。つまり、経験する機会を保証し、必要な指導を行っていくことで改善が図られる可能性は大いにあると考える。そういった点で、児童が互いにに関わり合う場面や熟考しながら物事を進める場面、失敗や対立に出合い、それらを乗り越えられるような場面を、授業のみならず日々の学校生活に意図的に設ける必要がある。

子供主体の学び、子供中心の学びとは、自由進度学習に代表される“選択”だけを意味するものではない。むしろ、児童がリアルな経験を通して学びを広げたり深めたりできるようにすること、そのための場や機会を意図的に仕組むことこそ重要である。その点で、児童のために必要な手間や労力を惜しまない教職員の姿勢が重要である。

<研究主題について>

これまで述べたことを踏まえて、本校においては、当面、児童が進んで学びに向かう姿勢の醸成を図っていく必要があると考える。

児童の課題（前出）として挙げたことは、これから急速に変化する社会にあって、多様な他者やできごとと出会い（出会い）、混沌や対立を乗り越えながら新たな価値を創造していくことが求められる児童にとって大きな障がいであると言えよう。様々なことに進んで取り組み、ねばり強くチャレンジを続ける姿勢の醸成が、これからを生きる児童にとって肝要である。

研究主題において、「進んで学びに向かおうとする」や「進んで問題解決に向かおうとする」とせず、「進んで課題解決に向かおうとする」としたのは、「課題解決」という言葉に、足元にある小さなことから取り組むことの必要性という意味を持たせたいと考えたからである。

教科等での用いられ方から考えると、「問題」には現在の自分の立ち位置と目指すべきゴールとの間に大きな隔たりがある。すなわち、ゴール（解決）は比較的遠いところにあるため、そこに向かう道のりも自ずと長くなる。これに対し「課題」には、問題解決に当たるために必要な一つ一つの作業（タスク）といった意味がある。一つ一つの作業（タスク）をクリアし、それを積み重ねていくことで、結果として大きな問題の解決を果たすことができる。このようなことから、自分で見出すか否かは別として、課題解決に進んで取り組もうとする姿勢や、課題解決のた

めの具体的な手段を児童がきちんと身に付けることが必要であると考えた。また、「進んで—」事に当たるということは、そこに児童自身の意思や考えがあるはずであり、新しいものや多様な他者との対峙に対する好奇心や関心があるのはもちろん、交わることで生じる問題や対立に果敢に挑もうとする勇気も含まれているはずである。言われたことだけする、目的も理由もなく取り組むといった受け身な姿勢ではなく、自らの意思で進んでいくという意味を「進んで—」という言葉に込めようと考えた。

なお、「学び」としなかったのは、よきにつけ悪しきにつけ、「学び」という言葉が非常に広い意味を包含する言葉だからである。

また、研究としては、あくまで主題に掲げたような児童を育成するための“授業づくり”を主たる柱として据えることとしたい。

<副題について>

研究主題に迫る手立てとして、次の2点を想定した。

1点目は、対話を取り入れた学びの充実である。本校がこれまで長きにわたり取り組んできた対話を取り入れた学びは、それ相応の成果を収めてきたし、取り組みの過程で生み出されてきた様々な財産がある。これらの意味を改めて考えながら日々の授業等に活用することを通して、自分の考えを持つことやそれを相手に伝えること、相手の考えを理解すること、多様な考えを生かすことといった力を児童に育んでいきたい。そして、これまでの成果に基づいた取り組みを進めることを通して、本校としての対話に対する考え方やそれに付随する成果物等を見直す機会としたい。

また、対話を取り入れた授業の有り様をより明確にするために、問題解決的な学習を掲げた。問題解決的な学習は、特定の手法や手段を意味するものではない。児童が受動的な学習ではなく、自ら学習の問題の解決に当たろうとする能力を養うことを目的とした学習原理である。問題解決的な学習においては、教師が児童の能動性を引き出すことが求められる。本校においては、これまでの校内研究の一つの成果として、「授業の基本的な流れ」を明示している。

2点目は、ICTの効果的な活用である。ICTに関しては、情報収集や収集した情報の整理・分析、互いの考えの共有等において活用が進んでいる。こうした流れの下、より多様なICTの活用の在り方を探っていくことにより、教師にとっての授業の質、児童にとっての学びの質の向上がそれぞれ期待できる。また、ICT活用に係る技能のみならず、情報モラルに関する指導を併せて行うことで、児童がより安全に、より効果的にICTを活用した学びを展開することができると思う。

以上の2点について具体的な取り組みを進めることを通して、研究主題に掲げる児童の姿を目指していきたい。

3 研究内容

- 児童の対話力の向上を図る。
 - ・ 授業をはじめ、対話を取り入れた活動を日常的に取り入れる。
 - ・ 基本的な話し方や聴き方の指導を行う。
 - ・ 対話や学び合いの基盤となる学級集団づくりに意図的・計画的に取り組む。
- 問題解決的な学習を意識した授業づくりを行う。

- ・児童の生活経験や学習経験から学習の問題や課題をつくることに努める。
- ・課題との出会い（見通し・解決に向けた予想）、調べたり考えたりする活動（情報収集・情報の整理や分析・学び合い）、まとめ（課題に解決や学び方の振り返り）といった大まかな学習の流れを通して、児童が自ら課題に向き合える授業をつくる。
- ・学び合う場面を設け、児童が互いに考えの背景や根拠を探ったり、対立する考えとの折り合いをつけたりできるよう必要な指導を行う。

○ ICTの効果的な活用を進める。

- ・日常的なICTの活用を推進する。
- ・ICTを取り入れた活動を積極的に試行するとともに、成果や課題の共有を図る。
- ・児童がICTに自信を持って向き合えるよう、必要な技能指導や情報モラルに関する指導を行う。

※ 個人の問題意識やキャリアステージに基づく取り組みを行う。

- ・研究主題に迫る上での自分自身の問題や課題を明確にし、その解決に必要な取り組みを行う。

例) Canva を活用した情報共有や話合いの内容の整理・分析

Q-Uを活用した学級集団の分析と、それに基づく班や係活動の見直し

基本的な学習規律定着に向けた取り組み（学習規律の見直し・設定、取り組みの徹底）

学級通信を活用した学級の学習や生活の様子発信（情報発信、児童の相互理解促進）

4 研究組織

研究組織として、次の部会を設置する。なお、部会の他、必要と思われる活動は個人または少人数のグループ等によって推進してかまわない。

(1) 研究推進委員会

校長・教頭・教務主任・研究主任によって組織し、必要に応じて各ブロックの代表や問題別研究グループの代表等の参加を求める。研究に係る基本的な方針を検討・決定し、校内研究会に提案する。

(2) ブロック（低学年ブロック・中学年ブロック・高学年ブロック）

各ブロック内において、日常的な授業観察や授業に関する情報交換等を行う。必要に応じて提案授業を実施することも考えられる。また、学習規律の検討や家庭学習の取り組みなど、全校的な活動を推進する際には、当該ブロックの児童の実態に沿った原案作成等を行う。

(3) 問題別研究グループ

問題別研究グループとして、次のグループを設置する。なお、これ以外のテーマについても必要に応じて設置することが考えられる。問題別グループは年間を通した活動でなくても構わない。複数のグループ同士が、取り組みを通して明らかになった成果や課題を共有することで、本校として学習指導等に必要幅広い内容にアプローチすることができる。

① ICT活用グループ

ミニ学習会等を通して、ICTに関する情報発信を行ったり、ICT活用の方法やアイデアの共有を図ったりする。

② 学級集団づくりグループ

学級集団づくりに関する情報やアイデア等を発信したり、学習会を企画したりする。

※ 個人の問題意識やキャリアステージに基づいて設定したテーマについて、必要に応じて複数人で研究に当たること等が考えられる。

※ ICT及び対話に関しては、校内研の中で、毎回全体で学習する場を設ける。実践の提供や情報提供等を想定している。

5 研究の日程等

回	実施日	内容
①	4月15日	校内研究の在り方について
②	5月20日	校内研究についての話し合い
③	6月24日	研究主題・研究組織等提案 第1次
④	7月22日	特別支援に関する研修会 研究主題・研究組織等提案 第2次 ※決定
⑤	9月2日	
⑥	10月21日	
⑦	11月18日	
⑧	12月16日	
⑨	1月27日	

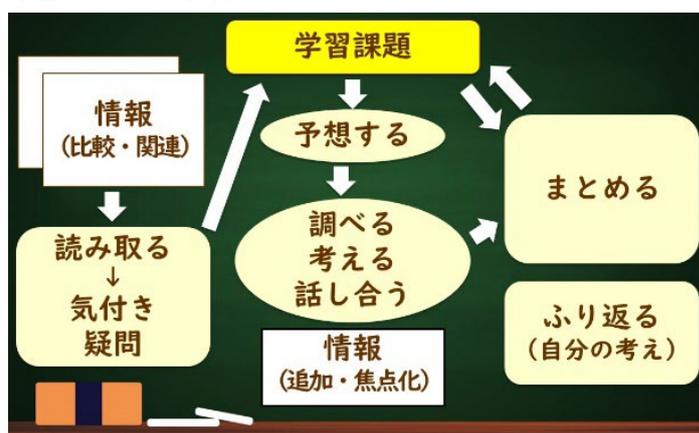
※ 研究の日程については、改めて提示する予定であるが、夏季休業明けに校内研として6年生の授業観察を実施する予定である。

<目的>

6年生の授業を観察し、研究主題・副題や研究内容等に挙げた授業の構成のしかた、ICTの活用や学級集団づくりの様子等を全体として分析することを通して、今後の授業づくりや各種実践の参考とする。

なお、授業観察に当たって、学習指導案の検討等は想定していない。「対話を取り入れた学び」「問題解決的な学習（授業）の流れ」「ICTの活用」「児童への関わり方（支援のしかた）」といった視点から実践を分析することで、自分自身の授業の在り方を考える機会としたい。

6 問題解決的な学習（授業）のイメージ



授業の基本的な流れ

見通す

学び合う(対話)

振り返る

つかむ	<p>①単元・本時の学習を見通す。 ※本時の課題(問題)をつかむ。 青で囲む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○与えられた資料や教材から学ぶ必然性と学習意欲を持つ。 ○前時を振り返り、本時は何について学ぶのか見通しを持つ。 ○ノートに日付とめあて(問題・課題)を書く。
考える	<p>②課題に対する自分の考えを持つ。【自分との対話】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○理由や根拠を明らかにしながら、自分の考えを書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・理由・根拠：本文の叙述、資料、経験など
深める	<p>③他者と学び合う。【仲間との対話】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ペアやグループによる対話をする。 ○全体での対話をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・根拠を示しながら表現する。 ・多様な考えに接し、新しい考えに気づいたり、思考を広めたり深めたりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを進んで発信する。 ・その場に応じた声の大きさと、最後まできちんと話す。 ・友だちの意見はだまって最後まで聞き、あいづち・うなずき、返事などで反応する。 ・分かったふりをしない。分からなかったら聴いたり、聴き返したりする。 </div>
まとめる	<p>④単元・本時の学習を振り返る ※めあて(課題・問題)に対するまとめをする。 赤で囲む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師と児童で話し合いながらまとめる。 ○キーワードを提示し、児童にまとめさせる。 ○日記文や手紙文や吹き出しなどの形でまとめさせる。 <p>※対話に関する学習感想を書いたり発表したりする。(今日の学び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時で何を学んだのか自分の学びを振り返る。【自分との対話】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・わかったこと ・まだよく分からないこと ・自分の考えが変わったり深まったりしたこと ・前に勉強したことと比べて考えたこと 新たな疑問 ・いい考えや方法だと思ったこと ・次にやってみたいこと など </div> <p>○新たな疑問や学習計画表を用いて、次時の学習の見通しをもつ。</p>

◎板書例

<p>○月△日 【めあて】</p> <div style="border: 2px solid blue; height: 30px; margin: 10px 0;"></div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>予想 疑問 児童の気づき 資料①</p> </div>	<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>児童の考え キーワード 資料②</p> </div> <p>【まとめ】</p> <div style="border: 2px solid red; height: 30px; margin: 10px 0;"></div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>【今日の学び】 自分の学びを振り返る</p> </div>
---	---

【「対話」の系統的指導】

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> ・相手を見て聴く。 ・うなずいたり, 反応を示したりする。 ・自分の考えをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を見て聴き, 反応する。 ・まずは, 自分の考えをもつ。はっきりさせる。 ・考えの根拠となる部分に線を引く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反応しながら聴き, 自分の考えを広げる。 ・相手の意図を捉えて, 話の要点をまとめたり, 内容を確認したりする。 ・話の意図が分からないときは, 尋ね返し, 確認する。
<p>◎効果的な教師のコメント</p> <p>「おへそは向いているかな。」「反応してくれると, 話しやすいね。」</p> <p>「そのうなずき (反応) いいね。」 ※教師も反応を示す</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・相手を意識して, 声の大きさや速さなどに気をつけて話す。 ・丁寧な言葉で話す。 ・自分のこと, 身の回りのことを話す。 ・「どうしてかという」と「～からです」等の言葉を使い, 根拠を話す。 ・友だちの考えと自分の考えが同じか, 違うか, 付け足しかを話す。 ・手振り・身振りも入れながら話す。 ・ICT 機器・Ipad 等を使って, 自分の考えを明らかにしてから説明する。 ・同じ説明を繰り返して言う。 ・友達の考えを説明する。 ・「ここまでいいですか。」と少しずつ切って確かめながら自分の考えを最後まで説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の考えを受けて, 自分の考えを話す。 ・「まず」「次に」「そして」等の言葉を使い, 自分の考えを順序立てて話す。 ・「〇〇さんの意見に付け足しです」等の前者の意見との関係を明確にしてから発言する。 ・他者の考えを自分の言葉で説明する。 ・「〇〇さんの言いたいことは, ～だと思います」等, 他者の説明をキーワードを使いながら完成させていく。 ・分からない部分を説明する。 ・「～だからだと思います。」というように, 理由を述べる時の話形をしっかり使えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体験や資料などを提示し, 根拠を明確にして話す。 ・聞き手を意識して, 伝えたいこと为中心が相手に伝わるように工夫して, 説得力のある話をする。 ・いくつかの意見を統合して話をする。 ・事実と感想, 意見, 根拠を区別して話す。 ・相手の質問を受けて, 相手は何を知りたいのか考えて話す。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと他者の考えの同異を判断する。 ・話題から逸れずに質問する。 ・友だちの話を聴いて, それに対する折り返しの質問をする。 ・友達の考えに対して感想を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と他者の考えを比較する。 ・自分の考えを見つめ直す。自分の間違いも受け止める。 ・他者の話す内容を正確に聴き, その上で共感したり批判したり質問したりする。 ・他者の考えや多様な考えを受け入れる。自分の考えとの違いに気づいたり, 認めたりする。 ・対話を通して, 新しい考えを生み出し追加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と他者との相違点を知り, そこから考えを深め広げていく。 ・立場や考え方が異なる相手の考えから, よりよいものを選択し, 新しい考えを生み出す。 ・ききたいことをはっきりさせて, 相手に質問する。 ・質問されたことに対して, 的確にアドバイスする。

対話のスキルトレーニング

長坂小学校

	活動名	内容・やり方
基本	自己紹介・他者紹介	自分のことや友だち（他者）のことを伝える
	絵文字	自分で考えた文字・絵文字を創作する。文字の意味を他者に伝える。
	これは何でしょうクイズ	ヒントを2つ言い、質問を2つ受ける。4つのヒントのクイズ。高学年では、英語を織り交ぜて行うこともできる。
	3人の共通点	3人ずつのグループをつくる。3人に共通することを見つけるために話し合いをする。各グループで見つけた共通点を発表し合う。
	サイコロトーク	サイコロをころがして、出た面に書いてあるお題に沿って話をする。
	今日のキラリさん	その人のよい所を他の人に伝える
	お話タイム	お題を提示して、そのお題について対話する（2～3人のグループで、学級内を歩きながら相手を探す・いつもと違う友だちと組む…など）。
	得意なこと	2・3人のグループをつくり、一人が得意なことを伝える。他の人は質問をする。
	チェンジトーク	教師が板書する話題についてペアでおしゃべり。教師の「チェンジ」の合図で次の話題でおしゃべり。時間があったら、友だちの話したことをみんなに教えてもらう。
	タイトルトーク	短冊を配り、自分の話のタイトルだけ書かせる。3～4人のグループになり、タイトルだけ見て、どんな話か予想しながら自由に話す。
	ランキングトーク	「人気の〇〇ベスト5」と示し、ベスト5の中身をランダムに板書する。個人で理由も含め予想する。班ごと2分間話し合い、考えを一つにまとめる。発表する。
	わたしのニュース	自分のニュースを発表した後に、質問・感想を受け付ける。新聞記事を読んで、そのニュースにコメントする。
	耳をすまぜば	30秒程度の時間、静かに耳を澄ませて聴こえてくる音を聴き取る。聴き取った音をできるだけたくさん書く。その音について、友達と話し合う。（聴くことへの意識を高める）
	3分間質問	ペアでジャンケンをする。勝った方が質問者になる。3分間できるだけ多くの質問を相手にする。
	誕生日チェーン	1月1日～12月31日までの誕生日順に並ぶ。その間は黙ったまま。
写真をみる	一枚の写真をみる。写真が表現していることや背景を考えて、友達に伝える。	
すごろくゲーム	すごろくゲームを通してサイコロを振り、マス目の問題を読んであげたり、友だちに答えやすく声かけをしたりしながらカードやお金のやりとりをする。	
意味調べ	辞書を引いて、調べた言葉と意味を紹介する。「い」の5文字の言葉を調べよう→班で紹介し合って、特に紹介したいものを一つ選ぶ。→私たちが見つけた言葉は〇〇です。意味は～で、例文は〇〇です。	
発展	円卓ミーティング	使用例：自分の考えを円卓上に書く。回転させて他人の考えに対する意見などを書き入れていく。ワールドカフェのようにグループのメンバーを時間で替えていく…など。
	絵本トーク	お気に入りの本の紹介をする。絵本の読み聞かせをし、終わったら内容から3問クイズを出題する…など。
	グループスピーチ	グループで協力してスピーチをする。調査・考察をして発表内容を決める。
	物語の続き	昔話など、有名な物語の続きを想像してストーリーを組み立てる。聴い手が楽しめたり、納得したりするような内容にする。
	ディベート	テーマについて、相反する立場（肯定・否定）から討論する。最後に進行係がまとめることも視野に入れる。
	十年後の自分	十年後の自分の姿とそのプロセスを書き出す。グループになってそれぞれの考えを発表し、その後理想の姿に向けて話し合う。

授業における対話の構造図 (長坂小学校)

自己内対話

他者との対話 (ペア・グループ等)

自己内対話

他者との対話 (全体)

自己内対話 (まとめ)

深い学び

子どもの成長

子どもの思考

- ・ 自分の考えをしっかりと持つ
- ・ 複数の考えを持つ

- ・ 自分の考えを伝える
- ・ 他者の (多様な) 考えを受け止める
- ・ 自分の考えを再構築する
- ・ 自分と友達のを統合 (融合) する

- ・ 新しい考えを生み出す
- ・ 対話・学習する楽しさや喜びを味わう
- ・ 次に学びたいことを考える

柔軟に考える

お互いに高め合う

教師の支援

- ・ 知識・理解の定着を図る
- ・ 学ぶ意欲を喚起させる
- ・ 学習課題を工夫して提示する

子どもの主体性を高める

対話への支援をする

- ・ 対話形態を工夫する
- ・ 対話スキルを活用させる
- ・ 子どもへの声かけをする

子どもの主体性を高める

- ・ 子どもの思考を変化させる
- 「間」を確保する
- ・ 子どもたちの成長を認める
- ・ 次時の学習につながる発言や声かけをする



家庭学習の手引き

長坂小
1・2年

「家庭で学習をする基本的な習慣」を
身につけましょう！

学習時間の目安

30分

家庭学習は規則正しい生活から

○早寝早起き朝ごはん

まず、基本的な生活習慣を身につけることが大切です。生活のリズムを整えましょう。

○家の手伝いの習慣

身の回りのこととを自分でやり、家族の一員として家の手伝いをする習慣をつけましょう。

○準備の習慣

鉛筆を削り、必要な道具を揃える習慣をつけ、自ら学ぶ意欲を育てていきましょう。

低学年の「育ち」や「学び」の特徴

様々なことに興味をもち、何でも自分でやっっていこうとする時期です。でも、一人で学習の内容や方法を決めることはまだ無理です。家族で手助けをしながら、できたときは、「よくできたね」「やったね」と笑顔でほめてあげましょう。

家庭で気をつけたいことは…

① 学習時間の確保

「必ず机に向かう」習慣を身につけさせましょう。「何時から、何時まで勉強する」ということを、家庭でよく話し合い、無理のないように時間設定をしましょう。

② 学ぶための環境づくり

テレビをつけながら勉強しても、効果は上がりません。子どもが落ち着いた学習環境で学習できるように、各家庭で工夫したり話し合ったりしましょう。

③ 見届け・励まし

子どもが学習したことにできるだけ目を通し、声をかけてください。ほめたり励ましたりすることで、子どもはやる気をだします。毎日、スタンプをおすなどの「見届け」をお願いします。また、時間があれば、一緒に取り組みましょう。

④ 学校との連携

子どもの学習の様子など、相談したいことは、何でも担任にお知らせください。
毎日の宿題や自主学習への確認サインや一言をお願いします。

家庭学習のポイント



がくしゅうをはじめるまえに

- ☆テレビやゲームはけしましたか。
- ☆つくえのうえやまわりはかたづいていますか。



まずしゅくだいから

- ひつじゅん（かきじゅん）やはね・はらい・とめなど、もじのかたちにきをつけて、かきましょう。
- てん「、」やまる「。」にきをつけて、よみましょう。
- もんだいは、こえにだしてよんだり、えやすにかいたりしてかんがえましょう。
- わからないもんだいは、きょうかしょをみたり、いえのひとにきいたりしていっしょにやりましょう。



しゅくだいのほかに、こんながくしゅうを

【こくご】

- ◆ひらがな・カタカナ・かんじをただしくかくれんしゅうをしましょう。
- ◆かんじをつかって、みじかいぶんをかきましょう。

【さんすう】

- ◆けいさん（たしざん・ひきざん・かけざん）れんしゅうをしましょう。
- ◆きょうかしょのもんだいをもういちどやってみましょう。

【そのた】

- ◆ほんをたくさんよみ、ほんのだいめい・かいたひと・おもったことをみじかくかきましょう。
- ◆きょうかしょのぶんしょうで、すきなところ、こころのこったところをノートにうつしましょう。
- ◆したこと、みたことなどをぶんしょうにしましょう。

がくしゅうがおわったら・・・

- ☆いえのひとにサインやひとことをかいてもらいましょう。
- ☆れんらくちょうをみて、あしたのじゅんびをしましょう。





家庭学習の手引き

長坂小
3・4年

学習時間の目安

3年：40分
4年：50分

「自ら家庭学習に向かう習慣」を身につけましょう！

家庭学習は規則正しい生活から

○早寝早起き朝ごはん

まず基本的な生活習慣を身につけることが大切です。生活のリズムを整えましょう。

○家の手伝いの継続

身の回りのこととは、自分でやり、家庭での役割をもち、家の手伝いを何か一つでもいいので、続けてやりましょう。

○しっかりとした準備

学習用具の準備は、学習をスタートさせるはじめのステップです。鉛筆を削り、必要な道具を机の上にそろえることで、学習意欲につながります。物構え、身構え、心構えを大切にしましょう。

中学年の「育ち」や「学び」の特徴

自立心が芽生え、自分でやろうとすることが多くなってきますが、まだまだ手助けが必要です。好奇心が旺盛になり、活動内容や行動範囲も広がります。友達と行動することを好むようになり、口答えや反抗が少しずつ見られるようになってきますが、家族からの温かいほめ言葉や励ましの言葉で気持ちが安定し「やる気」につながります。

家庭で気をつけたいことは…

① 学習時間の確保

自ら学習に向かう習慣を身につけるためには、学習時間を決め、できれば毎日同じ時間帯に机に向かうようにすることが必要です。親子で話し合って無理のないように決めましょう。

② 学ぶための環境づくり

テレビをつけながら学習しても、効果はありません。落ち着いた環境で学習できるように、身の回りを整理整頓させるとともに、テレビ・ゲームなど、学習の妨げになるもののスイッチを切ることも必要です。

③ 見届け・励まし

学校生活にも慣れ、親の手を離れるこの時期こそ、子どもの学習の様子を丁寧に見ることが大切です。自分からやるのが大切だからといって任せっきりにするのではなく、必ず子どもが学習したことに目を通して、励ましの言葉がけをしましょう。ほめたり励ましたりすることで、子どもはやる気をだします。時間があれば一緒に取り組みましょう。

④ 学校との連携

子どもの学習の様子など、相談したいことは何でも担任にお知らせください。

毎日の宿題や自主学習への確認サインや一言をお願いします。

家庭学習のポイント



学習を始める前に

- ☆つくえのまわりがかたづいている。
- ☆鉛筆がけずってあり、学習に必要なものが準備できている。
- ☆しせいよく書こうとしている。



まず宿題をていねいに



- 字を書くときは、筆順、はね・はらい・とめなどに気をつけて、ていねいに書こう。
- 音読では、まちがえたりつかえたりせずに、言葉のまとまりではっきりと声を出して読もう。
- 文章問題は、問題を3回読んでから取り組もう。
- 終わったら、正しくできているか、よく見直そう。
- 直線や図形をかくときは、じょうぎやコンパスを使って正しくかこう。

続いて自主学習

復習を中心に取り組みましょう。

- ◆はっきりとした声で音読（お家の人に聞いてもらおう）
- ◆教科書やドリルなどを使って漢字やローマ字の練習（ていねいに書こう）
- ◆新しく学習した漢字を使った文作り
- ◆日記（原こう用紙のきまりをいしきする、習った漢字を使う）
- ◆国語の教科書や辞書や本にのっている文を、正確に書き写す
- ◆国語辞典や漢和辞典を使って、いろいろな言葉の意味や漢字の使い方を調べる
- ◆本を読んで、感想や気に入った文などを書く
- ◆計算練習（終わったら必ず答え合わせをし、まちがい直しをしよう）
- ◆プリントやテストでまちがえた問題や難しかった問題をもう一度やり直す

（休日にはこんなこともしてみよう）

- ◆ぎ問を持ったり、不思議に思ったことを資料集や図鑑、事典、本、コンピュータなどで調べる
- ◆ニュースに関心を持ち、新聞を読んで、感じたことや考えたことを書く

学習が終わったら・・・

- ☆家の人にサインや一言を書いてもらいましょう。
- ☆時間割や連絡帳をよく見て、明日の学習や用具の準備をしましょう。





家庭学習の手引き

長坂小
5・6年

「**計画的に自分の力で学習できる力**」を身につけましょう!

学習時間の目安

5年:60分
6年:70分

家庭学習は規則正しい生活から

○早寝、早起き、朝ごはん

まず基本的な生活習慣を身につけることが大切です。生活のリズムを整えましょう。

○家の手伝いの継続

身の回りの事は自分でやり、家庭での役割を持ち、家族の一員として家庭科などの学習を生かす機会を設けましょう。

○しっかりとした準備

学習用具の準備は、学習をスタートさせるはじめのステップです。鉛筆を削り、必要な道具を机の上に揃えることで、学習意欲につながります。物構え、身構え、心構えを大切にしましょう。

高学年の「育ち」や「学び」の特徴

自ら学ぼうという姿勢が見られるようになってきます。自己主張がはっきりできるようになり、時として大人への反抗も見られますが、大人の自分への評価が気になる頃でもあります。大人への階段をのぼり始めた我が子の心に寄り添い、主体的に取り組もうとする姿勢を見守るとともに、意欲や興味・関心が持続できるように励ましたりアドバイスしたりしていくことが大切です。

家庭で気をつけたいことは…

① 学習時間の確保

計画的な家庭学習を進めるためには、学習に費やす時間を決め、なるべく毎日同じ時間帯になるようにすることが必要です。親子で話し合って無理のないように決めましょう。生活のあらゆる場面で「学ぼうとする姿勢」をつけていきたいですね。

② 学ぶための環境づくり

テレビを見ながら学習しても効果はありません。学びに集中できるように、身の回りを整理整頓させるとともに、テレビ・ゲームなど学習の妨げになるもののスイッチを切ることも必要です。

③ 見届け・励まし

子どもは、ほめたり励ましたりすることで学習に対する意欲が増します。学習したことに目を通したり声をかけたりする機会を時々設け、できたことを認めて、「やればできる」という気持ちを育てましょう。子どもの自主性を大切にしながらも任せきりにすることなく、教科書や持ち物など、子どもの様子を時々確認していくことも必要でしょう。時間があれば、励ましながら一緒に取り組みましょう。

④ 学校との連携

子どもの学習の様子など、相談したいことは何でも担任にお知らせください。

毎日の宿題や自主学習への確認サインや一言をお願いします。

家庭学習のポイント



学習を始める前に

- ☆机のまわりが片付いている。
- ☆鉛筆が削ってあり、学習に必要なものが準備できている。
- ☆姿勢よく書こうとしている。
- ☆これから学習する課題の内容や取り組む順序が計画されている。

まず宿題をていねいに

- 音読では、間を取ったり情景を想像したりしながら読もう。
- 漢字練習では、筆順、はね、はらい、とめなどに気をつけて書こう。
- ノートやプリントはていねいに書こう。
- 計算の過程がわかるように書こう。
- 問題を解くときには、簡単な図や表、数直線を使って考えよう。
- 図形を描くときには、定規やコンパスなどを用いてていねいに描こう。
- わからないところは、教科書やノートで振り返ろう。
- 終わったら、正しくできているか、見直そう。



続いて自主学習

- ◆音読
- ◆漢字
- ◆意味調べ
- ◆ローマ字
- ◆日記
- ◆読書
- ◆計算
- ◆プリント・テストやり直し
- ◆授業ノートのまとめ
- ◆ニュース調べ
- ◆調べ学習
- ◆地図調べ
- ◆ものづくり



学習が終わったら・・・

- ☆家の人にサインや一言を書いてもらいましょう。
- ☆時間割や連絡帳をよく見て、明日の学習や用具の準備をしましょう。

あいことば

ぴん、とん、ぽっちり、にこっ

めせんはやや上に

あごはかるくひいて

かたのちからをぬく

せすじをのばす

かかとをゆかにつける

